

## 編集後記

2017年の第53回日本小児循環器学会総会・学術集会において、「次世代の育成」というシンポジウムに出席しました。シンポジウムの企画自体は、小児心臓外科医の育成に特化したものではありませんでしたが、国内における若手小児心臓外科医の執刀症例数が絶対的に不足している現状が報告され、そしてその中で必死にもがきながら一人前の小児心臓外科医になろうと努力している若手の先生の発表を聞いて胸が熱くなりました。欧米では集約化という形で外科医一人あたりの執刀症例数を確保することができているようですが、必ずしもそれだけで小児心臓外科医の育成がうまくいくわけではないということも共有されました。セッションの最後には、2017年当時小児循環器学会理事長であった安河内先生が、この問題については学会として必ず話し合いを行っていくと仰られたのを覚えています。それから約2年が経ち、「次世代小児心臓外科医育成プロジェクト」からの待望の発信が今回35-2号に掲載されました。次世代育成において、施設の集約化は「実現が難しいけど必要なこと」なのか、そもそも「必要ないこと」なののでしょうか？ 様々なDiscussionがこの雑誌をきっかけに広がっていくことを期待しています。

(犬塚 亮)